「在宅医療と介護連携」に関する相談と回答

(令和3年4月～令和4年3月:相談種別順)

番号	相談種別	相談者	相談内容	回答内容
03001	医療・介護の連携	医療機関	医療系サービスの利用確認票について、医師の押印は必要かどうか。	押印は必要ありません。
03002	医療・介護の連携	医療機関	介護施設を代わった患者家族から引続き主治医を務めるよう依頼されたが、この施設が面会禁止のため投薬のみお願いしたいといわれた。医療を遮断するような施設に遭遇したのは初めてで戸惑っている。どのように考えればよいのか？	<p>【厚生労働省Q&Aより】</p> <p>問1 令和2年4月7日事務連絡「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について（その2）」の別紙「社会福祉施設等（入所施設・居住系サービス）における感染防止に向けた対応について」において、面会の取り扱いは、「感染経路の遮断という観点から、緊急やむを得ない場合を除き制限すること」とあるが、訪問での診療は面会に該当するのか。</p> <p>（答）</p> <p>訪問診療は利用者と保険医療機関で計画的な医学的管理の下で医療を提供するものであり、面会に該当しない。医療従事者は感染予防策を実施しているので、利用者から訪問診療の希望を受けた場合は、施設は適切に受け入れをお願いしたい。</p>
03003	医療・介護の連携	介護保険者	病院側から、入院初日など心身が安定していない状態で介護保険の申請をされるケースが散見される。ケースバイケースなのは承知しているが、要介護認定される事を前提に患者・家族に話をされたり、急を要さない方の申請や、退院時期が不明確にも関わらず認定調査を求められる事が多く困っている。	<p>【3.9.22：東部地域医療連携協議会より】</p> <p>明らかに要介護が見込まれる場合、退院先が介護施設になりそうな場合等は、安定していなくても申請をお願いする時がある。その他、病院ワーカーも悩みながら申請となるときもある。</p>

「在宅医療と介護連携」に関する相談と回答

(令和3年4月～令和4年3月:相談種別順)

番号	相談種別	相談者	相談内容	回答内容
03004	診療報酬関連	介護事業者	これまで自宅で訪問診療を利用していなかった小規模多機能型居宅介護の利用者に対し、訪問診療を算定することは可能か？	令和2年度診療報酬改定により、小規模多機能型居宅介護を受けているものについては、退院直後であれば宿泊サービス利用開始前の患家への訪問の有無に関わらず算定可能。
03005	診療報酬関連	介護事業者	僻地に居住するものに対し往診可能な医療機関がない場合、遠方の医療機関から往診・訪問診療を受けることは可能か？	<p>医療機関の所在地と患家の所在地の距離が16キロメートルを超える往診に・訪問診療については認められていないが、「絶対的な理由」及び「特殊の事情」がある場合は、16キロメートルを超えて往診等を行うことができる。</p> <p>【16キロメートルを超えて往診料等の算定が可能な「絶対的な理由」及び「特殊の事情」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患家の所在地から半径16キロメートル以内に、患家の求める診療に専門的に対応できる保険医療機関が存在しない ・患者の求める診療に対応できる保険医療機関が存在していても当該保健医療機関が往診を行っていない 等